

○月△日  
水泳 離れていても友だちだよ



学校は違つけれど、YMCAのプールの何年も一緒に練習していた二人のお友だち。楽しいことはもちろん、苦手な練習もお互いにはげまし合ひながらがんばっていました。そんなある日、一人のお友だちが引っ越しをする事になりました。最後のスイミングの日、彼らは住所を交換し、年賀状を出すことを約束して別れました。

年が明けて最初の練習の日、「リーダー！年賀状来たよ！！」うれしそうに話してくれました。YMCAのプログラムを通して子どもたちの友情を垣間見た瞬間でした。

たけのこリーダー(緒方 由美子)

## YMCAの体験はみんなに

○月△日  
キャンプ 瞳輝く夏の夜のキャンプ



昆虫大作戦キャンプにはたくさんのお友だちが参加してくれました。虫を探しに行くことだけに熱心なのはなく、昆虫博士のおはなしを目を輝かせて聞いてくれました。

みんなは、博士がビックリするくらい、昆虫のことを知っていました。夜に雑木林へしかけを付けに行った時、早朝と夜にしかけの様子を確かめに行った時も、雨が降る中でも、一本一本の木を丁寧にライトで照らし、キラキラした目で昆虫を探していました。

キャンプをきっかけにもっと昆虫にお友だちになつてほしいと思います。

ジュニアリーダー(大塚 永幸)

思い出をつくりました。

○月△日  
体操 努力は必ず実る



鉄棒の逆上がりを一年以上練習中で、なかなか成功することができななお友だちがいました。毎回汗びっしょりになり、手の豆がつぶれてもあきらめずひたすら練習に励んでいました。

鉄棒の練習が終わると「リーダー、もう日もできなかつた...僕ができるようになれるまでずっと教えてね。」とまじめなまごころをこめて話していました。やる気を失わずに頑張っていました。

そしてある日のこと、いつものように練習に入った瞬間、なんと補助なしで逆上がりができたのです。本人は一瞬おどろき、その後涙を流しながら大喜びし、見学していたお母さんにガッツポーズしていました。

このびっぴりリーダー(猪股 大志)

# 楽しく遊んで学んで夏に大きくなるう

○月△日  
キャンプ 大きな自然がくれたもの



海辺のキャンプでみんなが夕食を作ろうとしていた時、あたりはオレンジ色に包まれ、広い海のもうこうに沈む大きな太陽がありました。思わず見とれていたみんなに、リーダーがひたひた。「この海と夕日に向かって、何か叫んでみる。」すると壮大な自然の力に心を開かれたのか、みんな次々と叫びはじめました。「海、大好きー」「キャンプ楽しいー」「おなか空いたー」「友だちサイコーー」そして一人ひとりの叫びに、みんなから温かい拍手が送られました。

この日は大きな夕日が、みんなの心をずっと近づけてくれました。

りゅうリーダー(野島 竜之介)

○月△日  
サッカー 解け込んだ瞬間



サッカー体験の日。男の子が、車から降りたものの、木陰に隠れてこちらの様子をうかがっています。お母さん曰く、「緊張しているのか...幼稚園では活発な子ですがね」と少し困った様子。毎週木陰からこちらを覗き、一緒に練習をする手には至りません。人足りません。すると、あるお友だちが彼に近づき、「一緒に試合しようよ」と彼の手を握りました。「一瞬の沈黙の後、2人はコートに向かい走り出しました。お友だち、そしてグループに解け込んだ瞬間でした。

彼は今小学5年生、友だちのことを思いやれる選手に育っています。

このびっぴりリーダー(竹ノ 貴文)

○月△日  
科学実験教室 ?が生み出すもの



科学実験の面白さは「なんでだろう」「から始まりませす。その日はバットポトルで空気砲を作りの、的当てゲームを行いました。その中でお友だちの倒せない子がいました。「なんでだろう」「その子がいぶやくと、「ねらいがずれているのー」とお友だちが教えてくれました。

「空気の飛び方がわかれば簡単に倒せるのにな」リーダーが「いぶやくと、」ビー玉を入れる水の中をやってみるなどたくさんアイデアがあふれだしました。子どもたちのアイデアの多さにびっぴりするも共に、感性の豊かさを感じることができた、すてきな思い出になりました。

うみがめリーダー(中村 恭浩)